

今泉台住宅地 長寿社会のまちづくりに関するアンケート調査 2020 集計結果

拝啓 時下、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

この度はご多忙の中、「今泉台住宅地 長寿社会のまちづくりに関するアンケート調査2020」にご協力頂きまして、誠にありがとうございました。お陰様で多くの貴重なご意見を伺うことができました。大変遅くなりましたが、アンケートの集計結果をまとめましたのでご覧ください。今後次の世代に受け継がれていく健康なまちづくりのために、皆様のご意見を大いに活用させて頂きたいと思っております。

なお、末筆ながら、書中をもって御礼申し上げますとともに、皆様のご健康・ご多幸をお祈り申し上げます。

敬具

横浜国立大学建築計画研究室・今泉台町内会

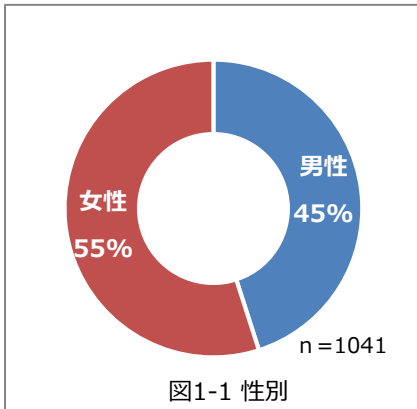
◆ 集 計 結 果 ◆

<調査概要>

- ・調査地域：鎌倉市今泉台1～7丁目、山ノ内（一部）
- ・調査時期：2020年2月
- ・全2,039世帯に対し、調査票（個票）を各戸に2部ずつ配布、658世帯、1051名から回答を得た。

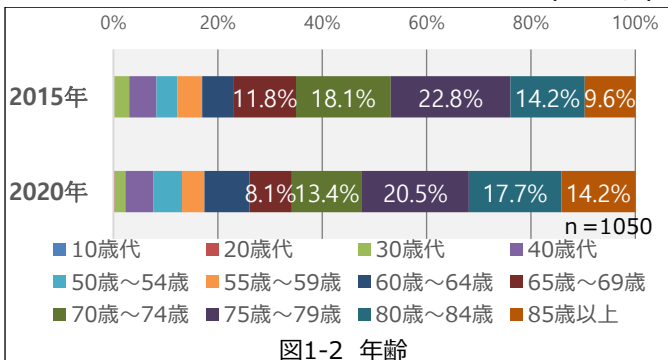
1. 回答者の属性

1)性別および年齢



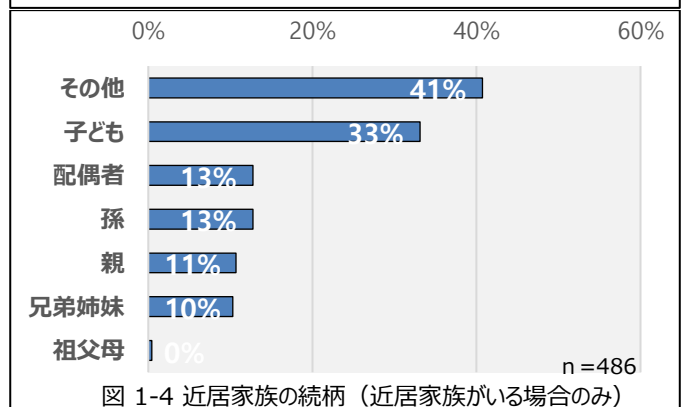
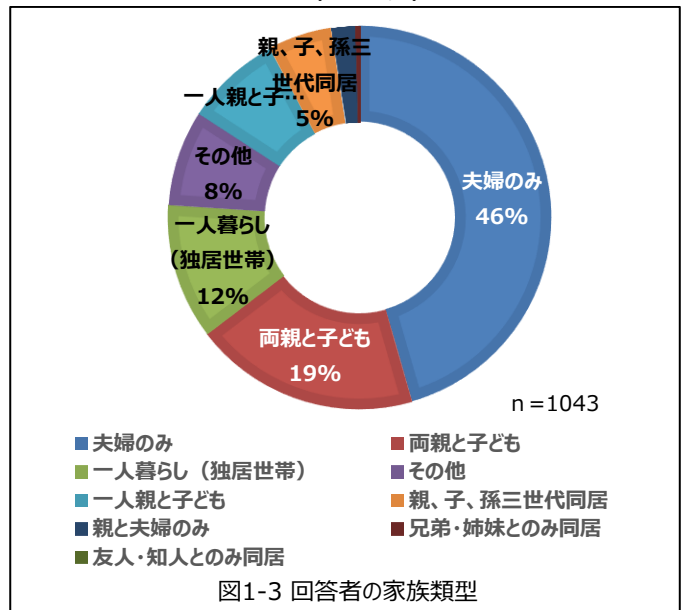
回答者1051名のうち、男性が約45%、女性が約55%であった。回答者の年齢は、高齢者(65歳以上)が73.8%で、前期と後期に区分すると、前期高齢者(65～74歳)が

21.5%、後期高齢者(75歳以上)が52.3%であった。2015年の調査と比較すると前期高齢者の割合が6.8%下降し、後期高齢者の割合が5.5%上昇している。(図1-1,2)



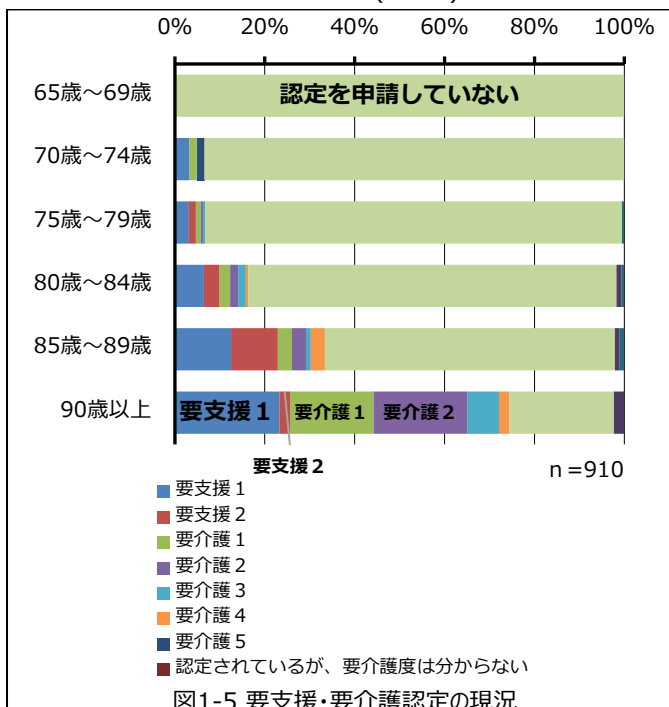
2)家族類型及び近居家族等

回答者の家族類型は、夫婦のみの世帯が46%で最も高い割合を占めており、1人暮らしの割合は約12%であった。また近居している家族がいると答えた人の3割以上が子どもと10分以内に近居している。(図1-3,4)



3) 要支援・要介護認定の現況

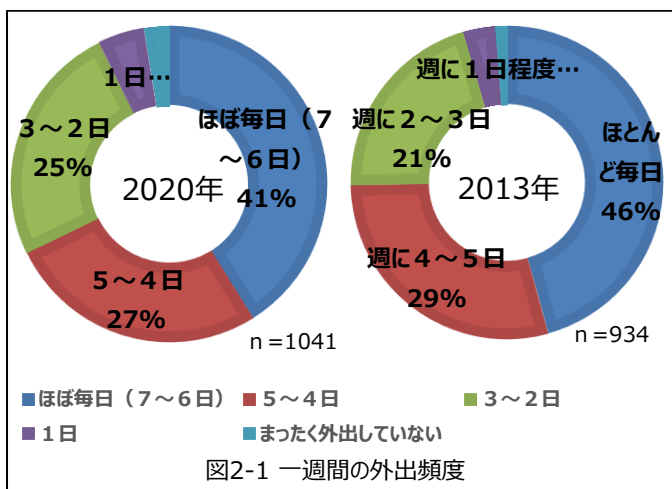
65歳以上の要支援・要介護認定の現況については、回答者のうち65歳～69歳までは認定を申請しているものはおらず、「70-79歳」までは7%前後であるが、80-84歳は約17%、85-89歳は約33%、90歳以上では75%以上が要支援・要介護認定を受けている。(図1-5)



2. 「健康」と「生活」について

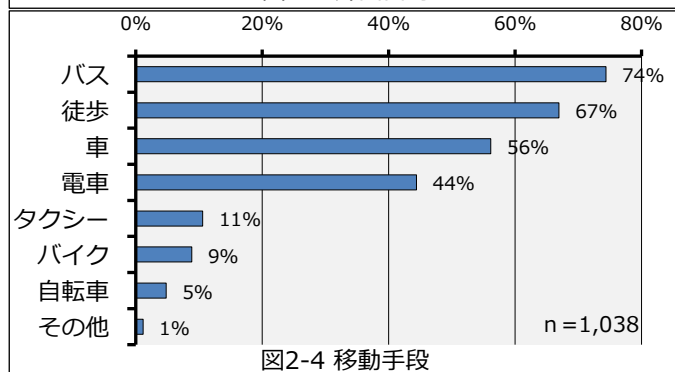
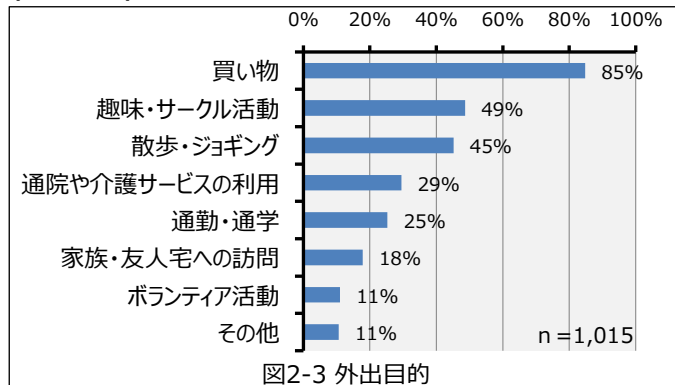
1) 外出について

一週間に外出する日数については「ほぼ毎日」と答えた人が41%と最も多く、全体の68%の人が一週間のうち4日以上外出している。2013年と比較してみると、外出の頻度は少なくなっている。(図2-1)



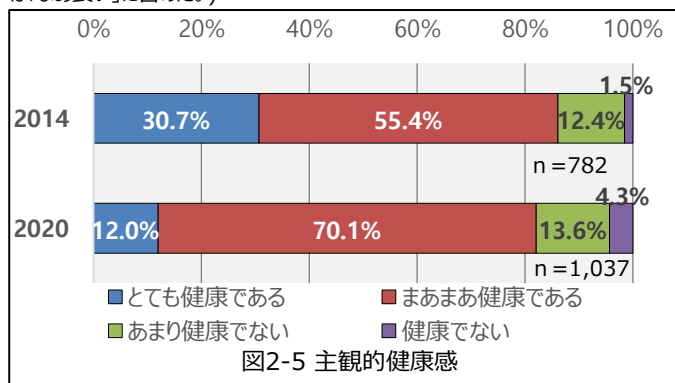
外出目的としては「買い物」が最も多く85%、次いで「趣味・サークル活動」が49%、「散歩・ジョギング」が45%という順になった。外出時の移動手段としてはバスが最も多く全体

の74%が利用しており、次いで徒歩・車・電車の順になった。電車の駅が遠いという地域の特徴が表れた結果と言える。(図2-3,4)

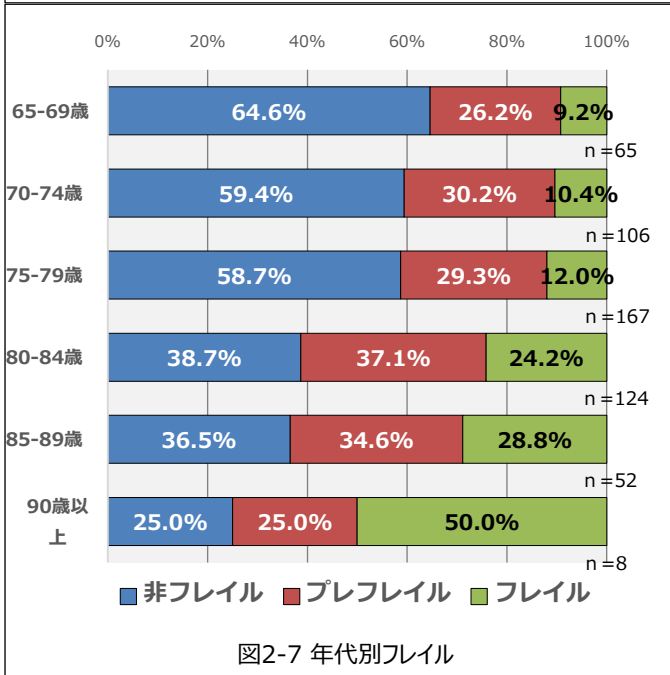
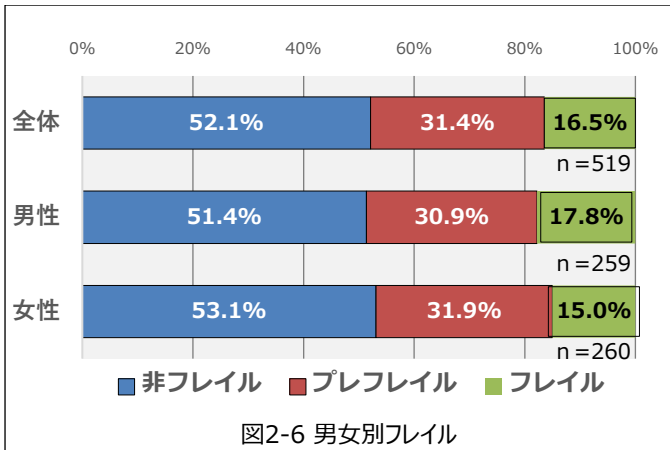


2) 健康について

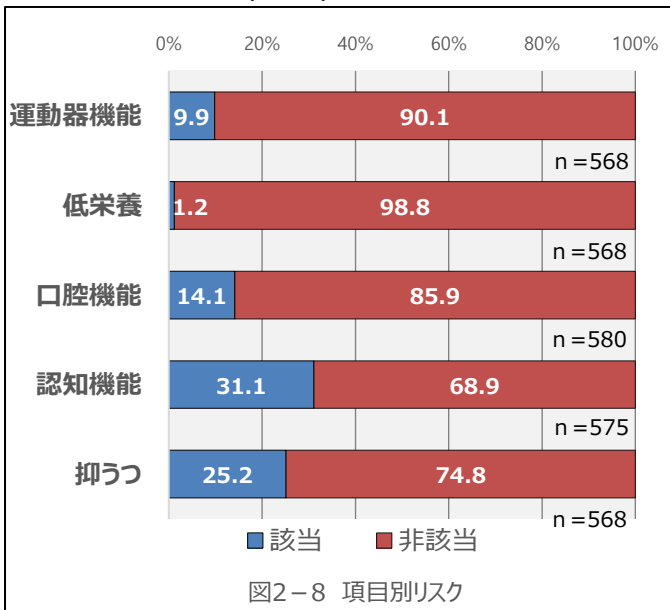
自分の健康状態について、「とても健康である」が12%、「まあまあ健康である」が70%となり、合わせて82%の人が「健康である」と答えた。2014年に比べ「とても健康である」が18ポイント減少し、「まあまあ健康である」が15ポイント上昇した。健康であると回答した人は、2014年の86%より4ポイント減少した。(図2-5 (注) 2014年は主観的健康感を「良い」「まあ良い」「普通」「あまりよくない」「良くない」の5件法で設問。今回の比較にあたり「普通」は「まあ良い」に含めた。)



65歳以上で要介護認定を受けていない回答者522人のうち、フレイル(虚弱性)を評価する基本チェックリストの総合点が8点以上を「フレイル」、4点以上8点未満を「プレフレイル」としたところ、全体で17%がフレイルに該当し、31%がフレイルの前段階である「プレフレイル」に該当した。年齢層別に見ると、年齢の上昇とともにフレイルの割合の増加がみられた。(図2-6,2-7)

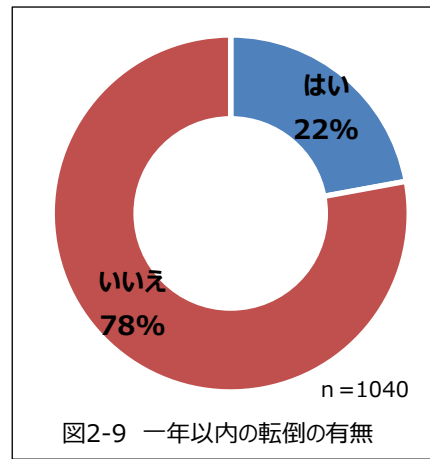


機能別にみると、「認知機能」と「抑うつ」で「の「該当」の割合が高い傾向を示した。(図2-8)



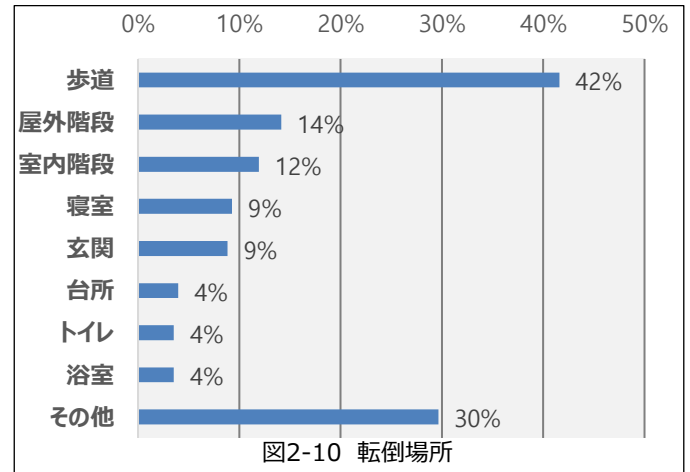
3) 転倒について

回答者の約22%にあたる230人が「一年以内に転倒したことがある」と答えた。転倒した場所・また転倒しそうになった場



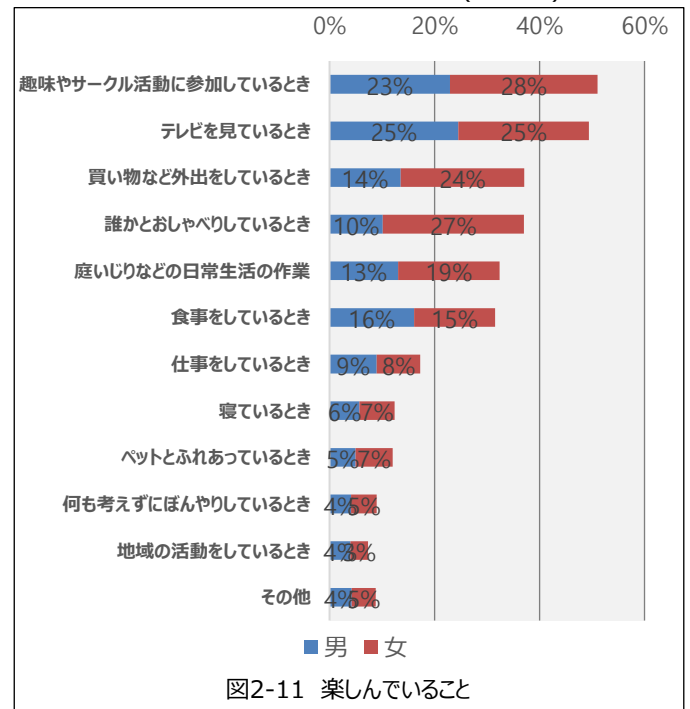
所としては「歩道」が最も多く42%をしめた。次いで屋外階段(14%)、室内階段(12%)の順に多い。転倒場所としては室内より室外の割合が高く、階段での転倒が歩道に次いで上位を占めた。

(図2-9,10)



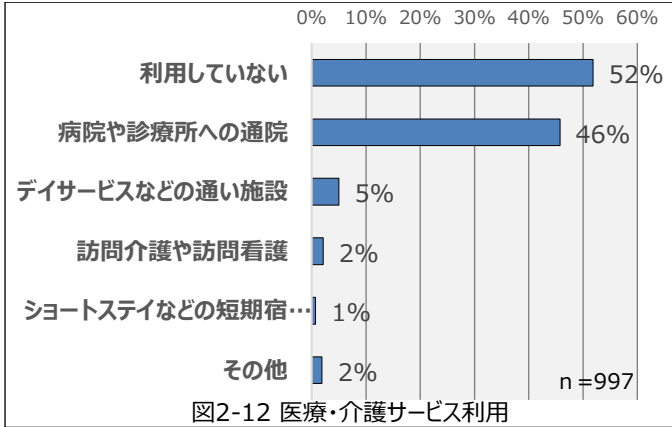
4) 日頃楽しいと感じることについて

日頃楽しいと感じることについて、「趣味やサークル活動に参加しているとき」「おしゃべりしているとき」など誰かと一緒に活動しているときをあげる人が多い傾向が見られた。また外出など外部の人と触れ合う機会があるものも割合は高い。一方で「テレビを見ているとき」も上位を占めた。(図2-11)

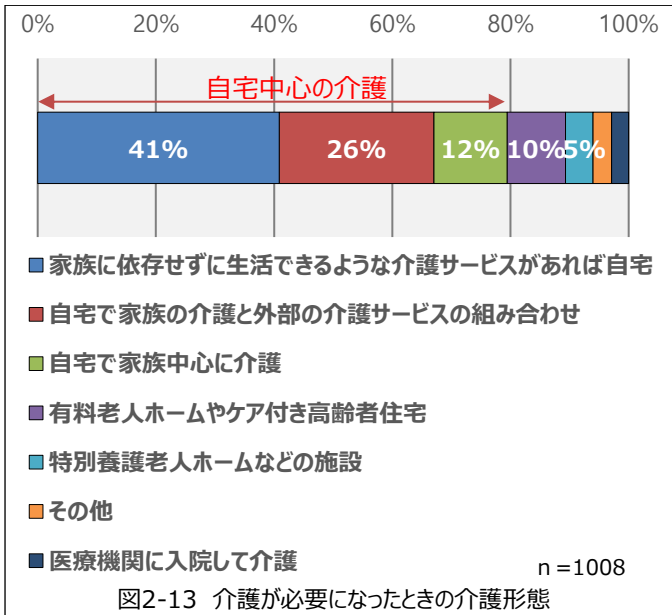


5) 福祉環境について

回答者のうち、医療・介護サービスを利用している人の割合は48%、利用していない人の割合は52%と、利用者は約半数であった。利用している人の中で最も利用者の多いサービス形態は「病院や診療所への通院」で、全体の46%を占めている。次いで「デイサービスなどの通い施設」が5%、「訪問介護や訪問看護」が2%となった。(図2-12)

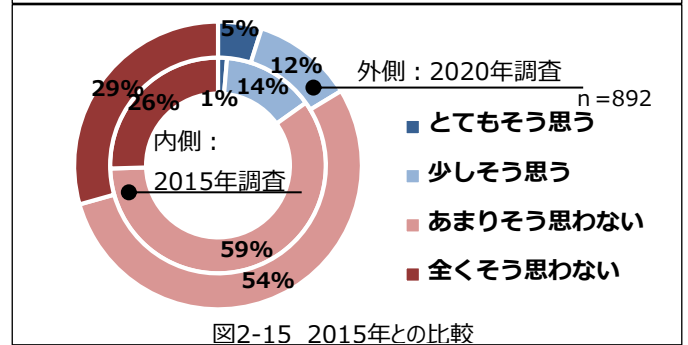
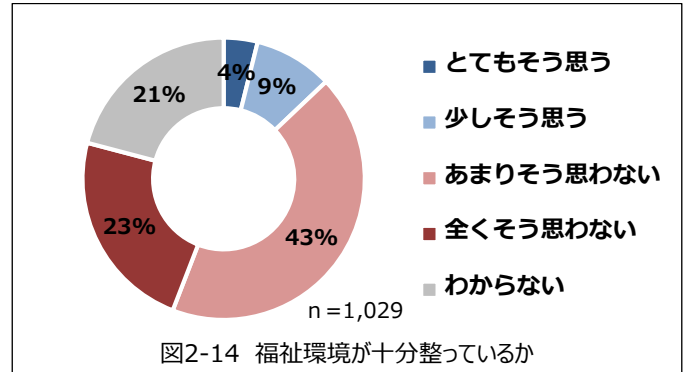


「介護サービスが必要になった場合にどのような介護を受けたいか」の質問では、自宅で介護を受けたい意向が約8割を占めた。有料老人ホーム、高齢者住宅、特別養護老人ホームを希望する意向は全体の15%程度となった。自宅中心の介護の中で最も希望が多かったのが「家族に依存せずに生活できるような介護サービスがあれば自宅で介護を受けたい」で、家族に負担をかけず出来る限り自宅で過ごしたいという思いが見られる。(図2-13)



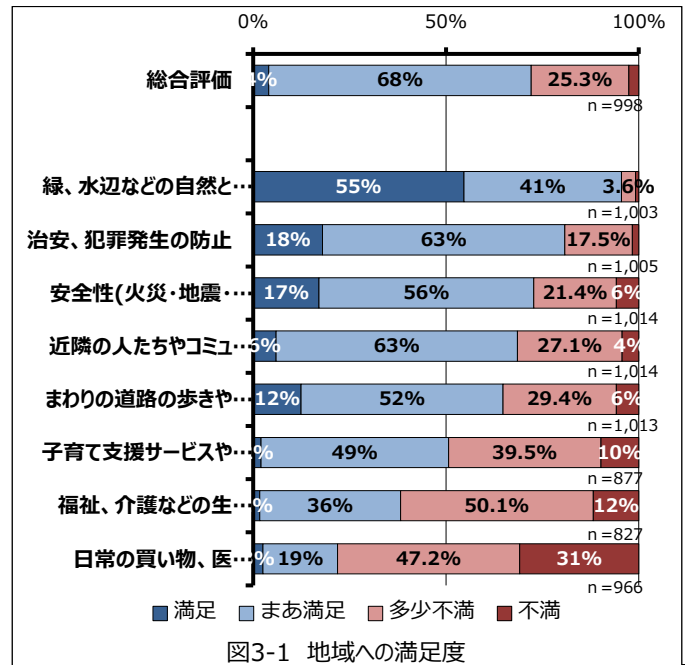
「今泉台には高齢になり介護が必要になっても住み続けられるような福祉環境が十分に整っていると思うか」という質問に対し、今泉台の福祉環境が整っていると思う人は13%のみであり、66%の人が整っていないと答えた。しかし「わからない」と答えた人を除いて2015年と2020年を比較すると、「福祉

環境が整っている」と答えた人の割合は15%から17%になり、2%増加している。(図2-14,15)



3. 「地域への満足度」について

今泉台の環境について、総合評価では7割以上が満足としている。特に「自然とのふれあい」や「治安・犯罪発生防止」についての満足度は高い。一方、「日常の買い物、医療、福祉、文化施設などの利便性」、「福祉・介護などの生活支援サービスの状況」については満足度が低い結果となった。(図3-1)

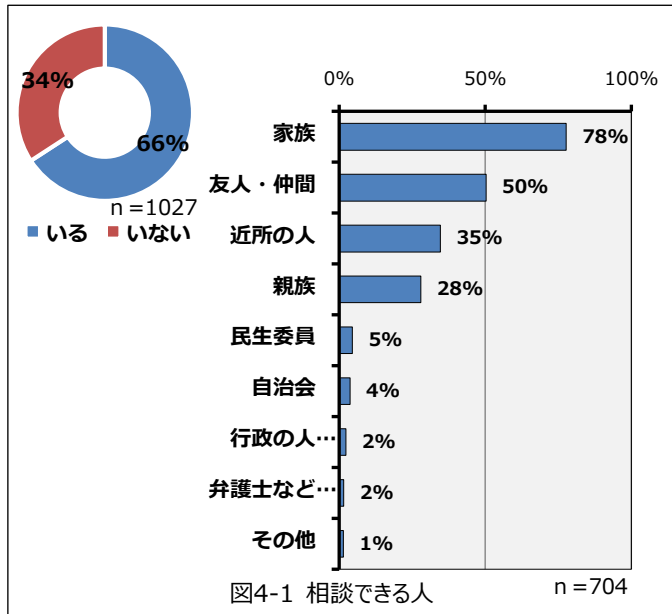


4. 「地域へのかかり方」について

1) 相談できる人について

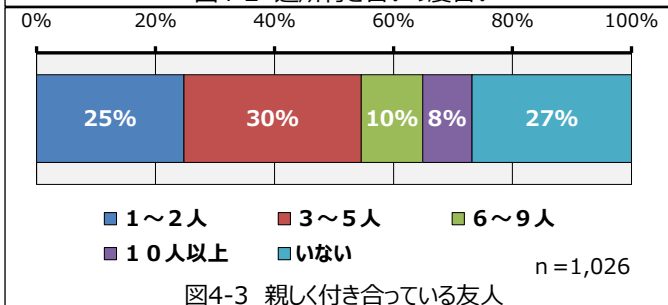
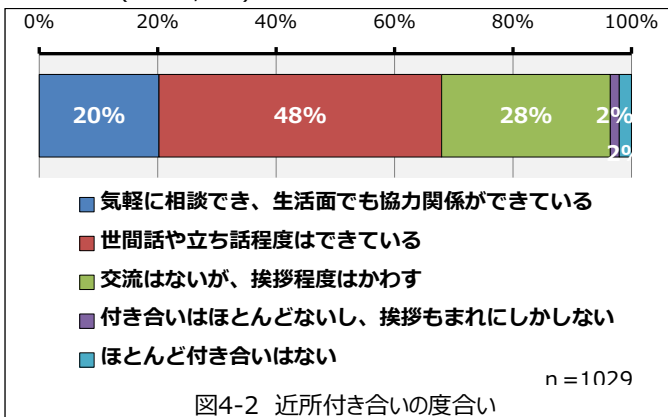
困ったとき近くに相談できる人がいるかという質問に対しては66%の人が「いる」と答えた。その中で相談できる相手を「家族」と答えた人が78%と最も多く、次いで「友人・仲間」(5

0%)、「近所の人」(35%)となった。3人に2人は友人や仲間などまわりに相談できる人がいる一方、一人暮らしの割合は1割強にすぎないことから、家族と同居していても相談しづらいと感じている人もいることが明らかになった。(図4-1)

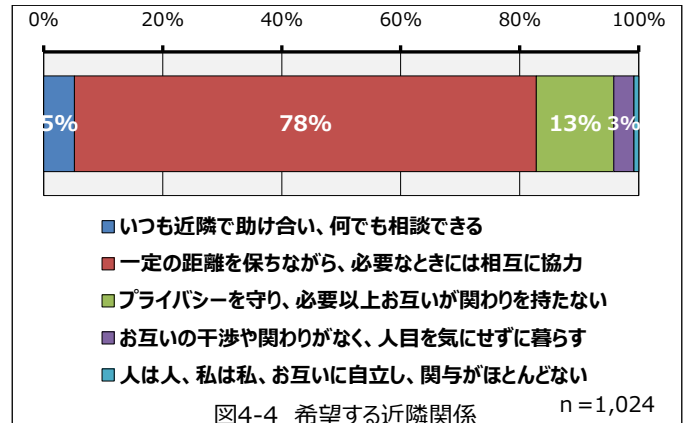


2)近所付き合いについて

最も多い近所付き合いは「世間話や立ち話程度」で48%、次いで「交流はないが挨拶程度」の割合が高い。生活面で協力するまではいかないが、挨拶や世間話程度の交流をしている人が多いということがわかった。一方で4%の人は「近所の人との付き合いはほとんどない」と答えている。また親しく付き合い合っている友人の人数を尋ねたところ、3~5人が最も多く30%となった。しかし一方で「いない」と答えた人も27%と同じくらい高い割合となり、人によって近所付き合いの度合いに差が見られた。(図4-2,4-3)

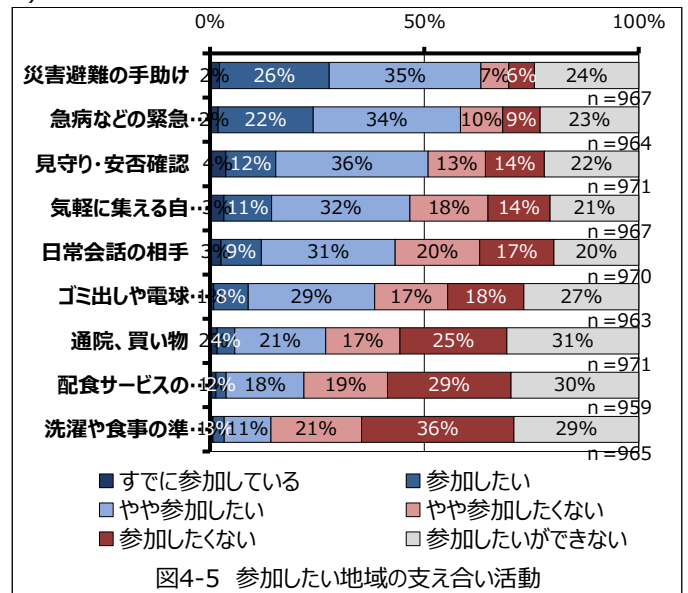


希望する近隣住民との付き合い方については、78%の住民が「一定の距離と保ちながら必要な時には協力する」を希望した。次に多いのが「プライバシーを守り必要以上お互いが関わりを持たない」で、比較的弱い関わりを好む傾向がうかがえた。(図4-4)



3)地域の支え合い活動について

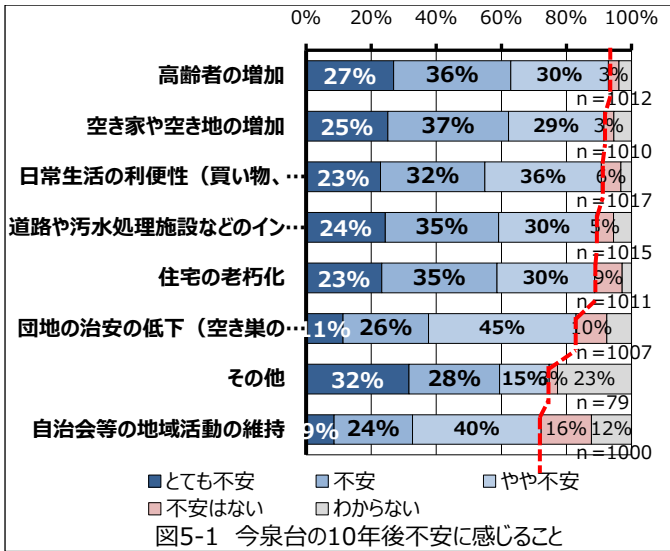
地域の支え合い活動について参加したいと思うものを聞いたところ、「災害避難」「緊急時の手助け」など緊急性の高いものについて参加したいと答える人が多かった。これらに次いで「居場所作り」「見守り」など日常的に比較的気軽に行える活動があがった。一方「参加したくない」「参加したいができない」と答えた人が多かったものには「家事支援」「配食サービス」などが見られた。(図4-5)



5.「地域の将来」と「空き家」について

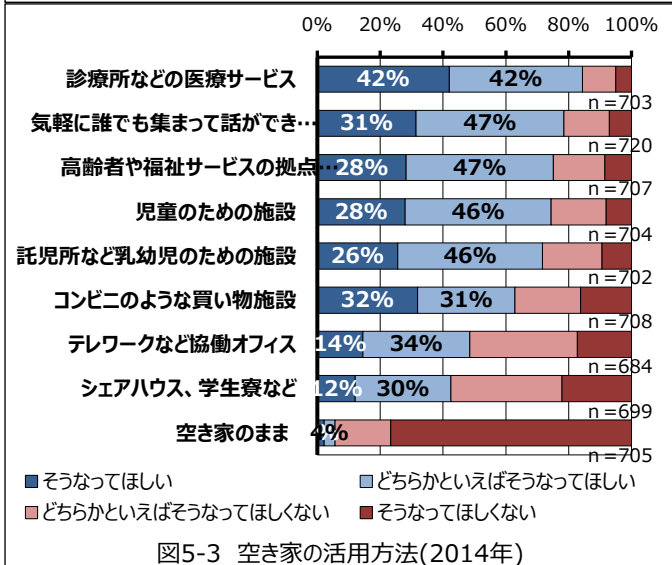
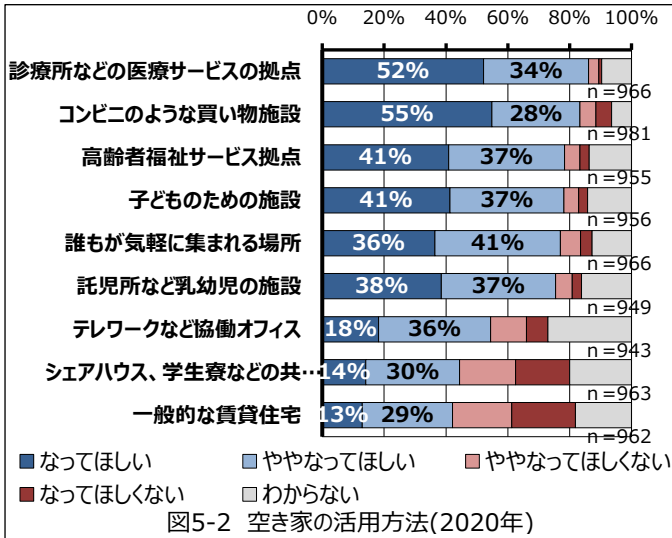
1)10年後の今泉台について

10年後の今泉台で不安に思うことでは、「とても不安」・「不安」と答えた人の割合が高かったのは「高齢者の増加」「空き家・空き室の増加」だった。一方、不安に思わないものとして「自治会等の地域活動の維持」「団地の治安の低下」が挙げられた。しかしすべての項目で「やや不安」以上の不安さを答えた人の割合が約7割を超える結果となった。(図5-1)



2) 空き家の活用について

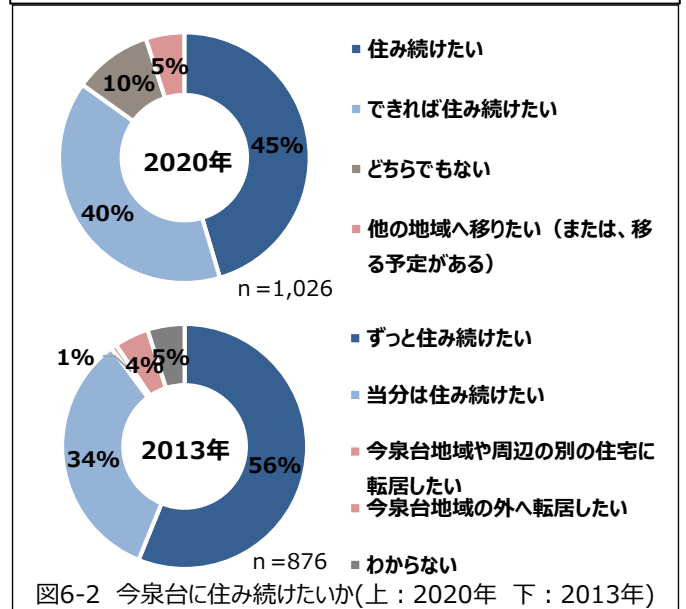
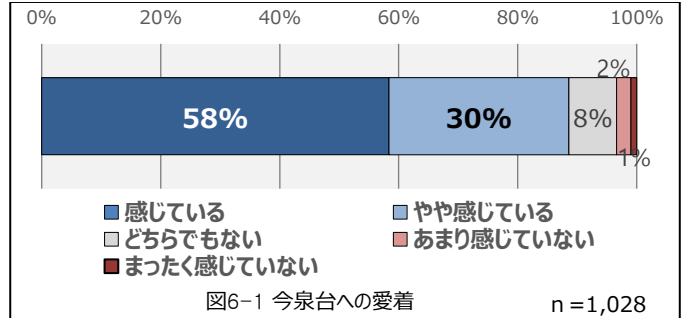
空き家を活用する際の用途として希望が多かったものとして「医療サービス拠点」「コンビニのような買い物施設」などがあがった。一方「共同住宅」や「賃貸住宅」については他と比べて否定的な考えが多かった。2014年と比較すると「気軽に集まれる場所」になってほしい意見が減り、「コンビニのような場所」になってほしい意見が増えた。(図5-2,3)



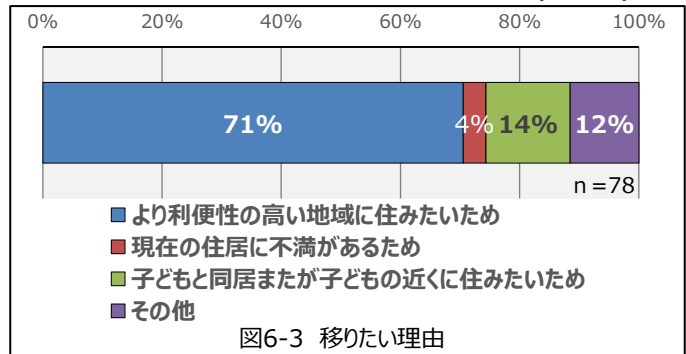
6. 「地域への愛着」と「自宅の管理計画」について

1) 地域への愛着について

地域への愛着は「感じている」が58%「やや感じている」が30%と、回答者の約9割が今泉台に愛着を感じている結果となった。一方今泉台に住み続けたいかという質問に対しては住み続けたい人が85%、移りたい人が5%という結果になった。2013年の調査と比較すると住み続けたい人が90%から85%になり、5%減少している。(図6-1,2)

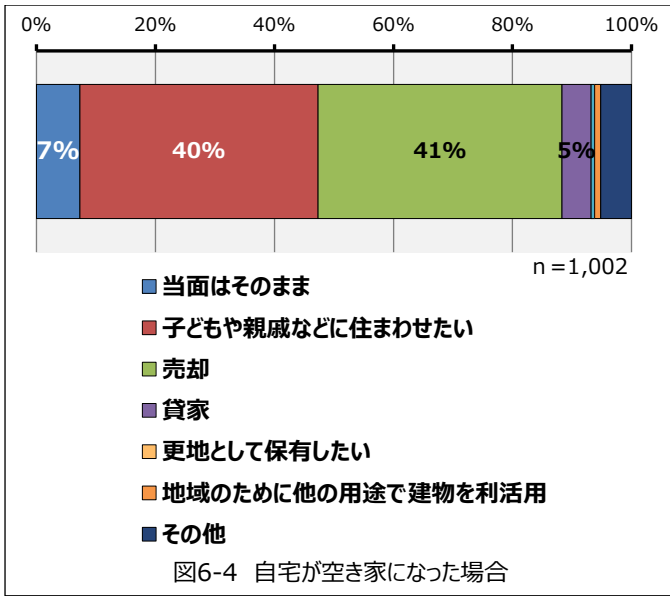


「他の地域に移りたい」と答えた人の理由を聞いたところ、「より利便性の高い地域に住みたいため」が71%と最も多くなった。また「子どもと同居・近居」も14%を占めている。(図6-3)



2) 自宅の管理計画について

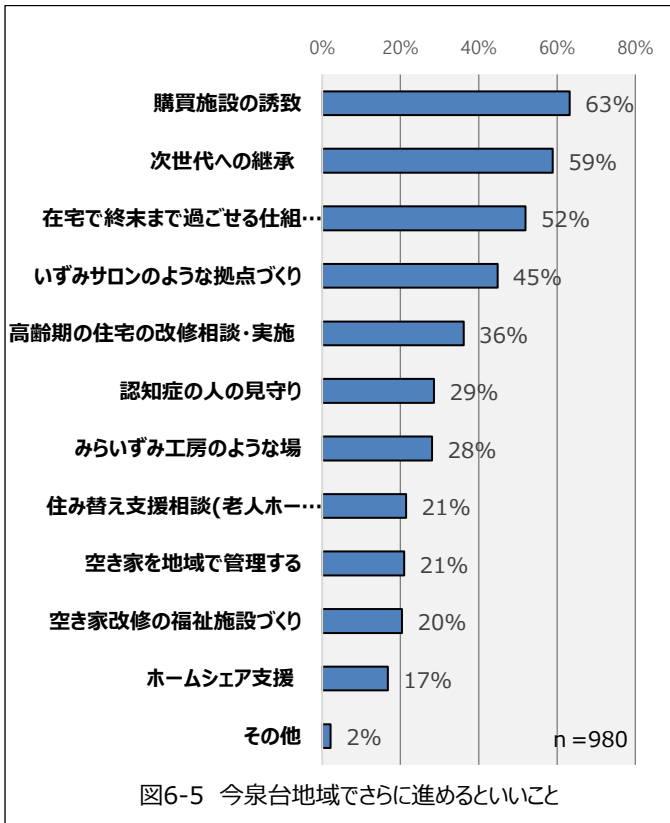
自宅が空き家になった場合の管理計画については「売却したい」が41%で最多だった。次に「子どもや親せきに住ませたい」が40%で、「賃家」は5%であった。(図6-4)



3) 今泉台の今後の取り組みについて

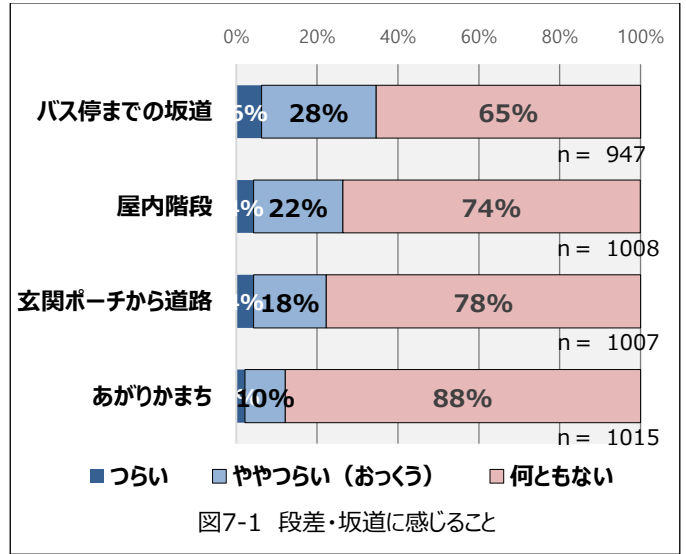
今後今泉台で進めていくべき取り組みとして多くあがったのは「日用品・食品購買施設の誘致」「次の世代の人たちへの良好な今泉台住宅地の継承」「在宅で終末まで介護されるような仕組み・拠点づくり」などであった。

また、多くの質問で共通する課題である「購買施設・介護福祉サービス」に加え、高齢化が進む中で次世代に継承していくべきという考えを持つ人が多く見られた。以前から取り組んでいる活動の中では、「在宅介護についての仕組み」は3位であるにもかかわらず、「空き家改修による福祉施設づくり」は下位にとどまった。ホームシェアに関してはあまり関心が向いていない結果となった。(図6-5)



7. 「地域の高低差」「環境条件」について

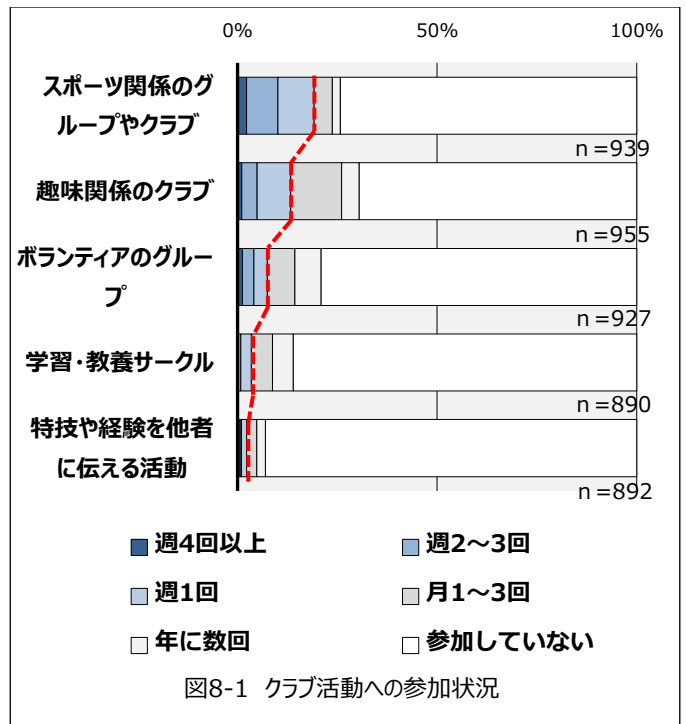
身近な段差や坂道については「自宅とバス停の間の坂道・階段」についてつらいと考える人の割合が最も高かった。しかしすべての項目で65%以上の人が「何ともない」と答えた。(図7-1)



8. 「地域活動の参加」「今泉台に対する意識」について

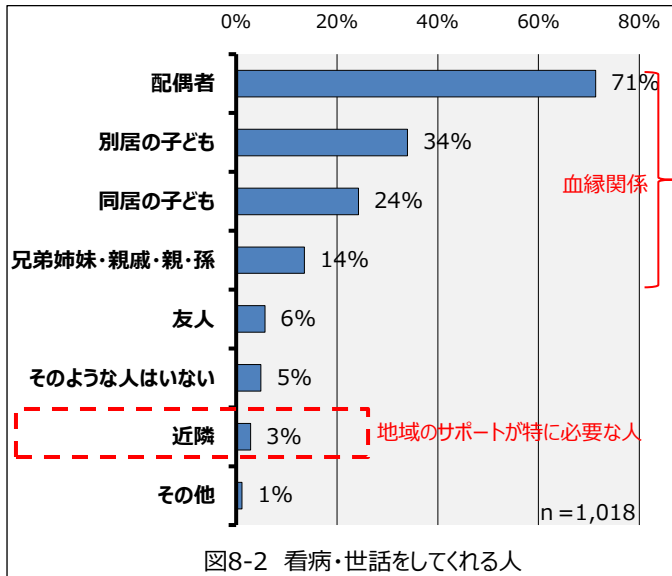
1) 地域内クラブ活動への参加状況について

地域内クラブにも様々な種類があり、参加率が高いのは「趣味関係のクラブ」「スポーツ関係のグループやクラブ」という結果になった。特にスポーツ関係のクラブは参加頻度も高く、住民が地域の人々と接点を持つために重要な役割を持っていると考えられる。「学習・教養サークル」や「特技や経験を他者へ伝える活動」については参加率も低く、参加頻度も低いという結果になった。(図8-1)



2)看病してくれる人について

看病してくれる人は「配偶者」と答えた人の割合が最も高く、71%となった。配偶者に次いで多かったのは「別居の子ども」で、こちらは「同居の子ども」を上回る結果となった。「愚痴を聞いてくれる人・聞いてあげる人」では友人の割合がかなり高かったが、看病になると割合は一気に下がり、家族の割合が高くなる。また「そのような人はいない」と答えた人も全体の約5%に及び、こうした人々に対して地域で何かしらのサポートを行う必要がある。(図8-2)



9.「住みよいまちづくり」について (自由回答)

最後に住みよいまちづくりに関して意見では、367件の回答が得られた。中でも、コンビニ設置への要望や食料品・日用品の入手困難さ、交通に関する事など「生活の利便性」についての意見が最も多く、全体の3分の1を占めた。買い物などの生活の不便さを指摘する意見は、他の設問での回答でもみられ(図3-1,5-2,6-5など)、住民が生活の利便性の向上を強く望んでいることがわかる。

次に、人とのつながりや地域活動の活性化、見守り、互助に関してなど近隣との「コミュニケーション」についての意見が多く、今泉台の人々は住民同士のつながりやコミュニケーションを大切にしている様子が見えてきた。また、若い世代の転入を期待する意見も多くあがり、住民は若い世代の転入により今泉台がより活気づくことを望んでいることがわかる。

それ以外にもゴミ出しや防災に関する事、歩道の歩きづらさなど住環境に関する内容や町内会の管理運営、施設系サービスへの要望などもみられた。施設については、町内会館だけでなく、住民が歩いてアクセスしやすい身近なところに交流する場所を望む意見も多数みられた。さらに、継続居住システム構築についての意見や期待の声も多くみられた。(図9-1, 2)

